

いいだ 市議会だより

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534

No. 210

平成30.10.26



第3回定例会のあらし
ズバリ市政を問う(一般質問)
議会による行政評価・提言

②

④

⑤

⑩



「小さな音楽会 全国コンクール」に初出場の
上村小学校の児童が議場で合唱披露
(ミュージカルのキャッツの曲でポーズ)

第3回定例会

平成29年度決算、平成30年度飯田市の一般会計補正予算(第5号)案など42議案を可決、同意、認定

定例会のあらまし

第3回定例会を、8月28日から9月21日まで25日間の会期で開催しました。

市長から平成30年度飯田市一般会計補正予算(第5号)案など、42件の議案が上程されました。このうち4件は報告で、3件の人事案件については、本会議で同意しました。そのほかの13件の決算認定案件を含む35件の市長提出議案については、所管の委員会では慎重な審査の後、本会議に諮り、決算については認定し、その他の議案についてはは原案のとおり可決しました。

市長提出議案のほかには、意見書提出に係る議会議案2件を上程し、いずれも可決しました。

また、請願及び陳情については、それぞれ1件ずつの審議を行い、委員会審査のとおり、請願については採択、陳情については、趣旨採択しました。

一般質問では、17人の議員が市政全般について質問を行いました。これについては、4ページから紹介します。

同意した人事 (敬称略)

○教育委員会の委員

北澤 正光

○人権擁護委員推薦

田畑 寛子、橋 祐三

○野底財産区管理委員

杉本 直明

議案に対する質疑と審査

報告案件、人事案件以外の市長提出議案は、総務、社会文教、産業建設の各常任委員会に付託され、集中的に審査しました。質疑等の内容は、6ページから各常任委員会のページで紹介します。

本会議での討論

平成29年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について、本会議で反対の討論がありました。

起立採決の結果、各委員長報告のとおり、賛成多数で認定されました。

議案第99号「平成29年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について」

反対の討論

リニア中央新幹線飯田駅整備基金の財源に「ふるさと寄附金」の1億円が充当されているが、リニア飯田駅の応援としての寄附金以外に、飯田市政全般に対しての寄附金を基金積立金に充てることには、疑問を感じる。

また、実質繰越の2億6千万を含む4億円を

計上したりリニア駅周辺整備に係る財源のすべてが一般財源となっている。

財源不足が心配される中、一般財源は、福祉・教育・災害対策など市民の暮らしに直結する分野に充当すべきと考え、反対。

議会議案の提出

2件の意見書の提出に係る議会議案を議決し、国会又は関係行政庁に意見書を提出しました。

議会議案第2号「小中学校のエアコン設置に伴う財源確保を求める意見書の提出について」

意見書の概要 近年の猛暑から、子どもたちが安全に、安心して学ぶことのできる環境整備のために、国に対し財政支援を求める

社会文教委員会の審査における、動議の提出、可決を受け、同委員会発議で提出され、全会一致で議決しました。

議会議案第3号「地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について」

意見書の概要 国において、地方公共団体がその担うべき役割を確実に実現するため、地方財政全体の安定確保に向けて、施策の実施に十分な一般財源の総額の確保をすることなど、対策を講ずるよう強く要請する

総務委員会で審査、採択した請願第4号に基づき、同委員会から提出されました。全会一致で議決し、国会及び関係行政庁に提出しました。

議長記者会見

平成30年9月25日に議長記者会見を行いました。第3回定例会を振り返るとともに、議会による行政評価について、9月21日に市長に対して提言した内容のポイントを各常任委員長が説明しました。

また、10月2日からの議会報告会について、議長より概要説明するとともに、分科会の内容を各常任委員長より説明し、広報広聴委員長が全体的な補足説明を行いました。

記者から議会報告会に対し、報告会というよりは広聴の色合いが強いことから、参加される方にわかりやすい名称の検討を求める意見がありました。



平成29年度飯田市各会計の決算を認定

平成29年度 会計別決算額一覧

(単位：千円)

		歳入	歳出	差引	
普通会計	一般会計	46,013,285	44,986,917	1,026,368	
	墓地事業特別会計	21,233	18,155	3,078	
	ケーブルテレビ放送事業特別会計	103,826	93,258	10,568	
(普通会計分除く)	国民健康保険特別会計	事業勘定	11,524,763	10,987,680	537,083
		直診勘定	3,394	3,393	1
	後期高齢者医療特別会計	1,353,980	1,338,615	15,365	
	介護保険特別会計	11,174,730	11,166,465	8,265	
	地方卸売市場事業特別会計	16,782	15,933	849	
	駐車場事業特別会計	82,722	63,116	19,606	
	介護老人保健施設事業特別会計	737,027	682,244	54,783	
	企業会計	病院事業会計		14,042,150	15,573,319
収益的収支			12,454,365	12,749,336	△294,971
			1,587,785	2,823,983	△1,236,198
水道事業会計			3,150,915	3,858,069	△707,154
		収益的収支	2,310,209	2,006,769	303,440
			840,706	1,851,300	△1,010,594
下水道事業会計		5,807,951	6,311,086	△503,135	
	収益的収支	4,414,137	3,761,936	652,201	
		1,393,814	2,549,150	△1,155,336	

市の会計には、基本的な行政運営の経費を経理する一般会計と、特定の行政サービスを提供するための経費を経理する特別会計等があります。特別会計等には国民健康保険、介護保険、下水道、水道、病院など10の会計があります。

決算は、各常任委員会において審査し、認定しました。

※
左表は、会計間で移動した金額を控除する前の額となっています。

※
企業会計は、収益的収支と資本的収支を合計すると支出の方が大きく赤字に見えますが、これは一般会計などとは異なり減価償却費などの非現金支出を計上しているためです。

平成29年度の決算において、一般会計、墓地事業特別会計、ケーブルテレビ放送事業特別会計の合計である普通会計は、会計間で移動した金額を控除した後の額で、歳入総額461億1,017万円、歳出総額450億7,016万円となり、平成30年度に繰り越す財源1億2,648万円を除いた実質収支は、9億1,354万円の黒字となりました。また、平成29年度のみ決算状況を表す「実質単年度収支」は、主に財政調整基金を取り崩したことにより、4億7,824万円の赤字となりました。

ズバリ 市政を問う!

一般質問とは、市政全般にわたり市長をはじめ執行機関側に、事業の進捗状況や将来的な方針などを質し、説明を求めるものです。第3回定例会での一般質問の概要を紹介します。(質問順)

スポーツマネジメントの取り組みによるスポーツ振興は

原 和世 議員(会派みらい)

Q スポーツ施設等の管理運営を含め、スポーツをビジネスとして捉え、スポーツマネジメントに民間活力をどう取り込んでいくか。

A 飯田市総合運動場の体育館と運動場に於いて、平成30年度から(公財)飯田市体育協会による指定管理を行っている。これは、大きな一歩であり、新たな事業展開が期待できるものと考えている。今後、教育委員会としても、スポーツ団体にとどまらず、地元企業や地域住民、公民館、学校などの連携をさらに充実させ、マネジメント力を強化していきたい。

小中学校へのエアコン設置に対する方針は

熊谷 泰人 議員(会派のぞみ)

Q 早急に全教室にエアコンを設置すべきかと考えるが、市長の見解は。

A 屋外活動の制限や水分補給の奨励、服装への配慮等をお願いしているが、それだけでは限界があると認識している。全国市長会では、国に対し、早急に補正の対応をすべきと要望している。また、災害級の猛暑への対応について話し合っている。飯田市としても全国に遅れることなく対応することが基本であり、できる限り早急の方針を出したい。方法には工夫があるが、基本的にはエアコン設置の方向で検討している。

学校施設の長寿命化計画策定について、基本的な考え方は

竹村 圭史 議員(会派のぞみ)

Q これから策定する長寿命化計画について、現在の小中学校28校をそのまま維持する考えか。また、小中学校の将来像をどのように考えるか。

A 2020年度までに策定する長寿命化計画では、現在の28校をベースとした計画を考えている。将来に向けては、28校の維持、統合、行政区ごとの小中学校一体化等、様々な選択肢があると思う。重要なことは、子どもたちや地域にとって、どういった学びの環境が最良なのかを検討していくことであり、幅広く検討を進めていきたい。

ピアゴ飯田駅前店閉店に係る影響と対策は

福澤 克憲 議員(市民パワー)

Q ピアゴ飯田駅前店閉店後の市民生活への影響を庁内関係部署で検討した結果、どのように考えたか。また、今後の方向性は。

A 日常生活の買い物に影響をきたす住民が多いことから、公共交通の拡充と小型電気バスの活用による対策を閉店直後から実施できるよう準備を進めている。後利用について、ユニークの考えを尊重しつつも生鮮食品や日用品の購入が可能な商業施設の設置についてお願ひしていく。
■働くことを軸とする安心安全社会の実現に向けて

AVIAMA総会の実績の生かし方は

岡田 倫英 議員(会派のぞみ)

Q これから総会を開催したことの真価が問われる時期と考えるが、市の所見は。

A AVIAMA(人形劇の友・友好都市国際協会)総会の開催は、将来に向かって意味のあるものだったと捉えている。今回、当市からの参加呼び掛けにより、南あわじ市、韓国の春川市、台湾の雲林縣、スペインのセビリヤの4都市がAVIAMAに新規加盟し、ネットワークを広げることができた。今回の総会は、東アジアにAVIAMAの活動を拡大していく契機になったと総括している。
■飯田版国際会議の在り方

子ども医療費の窓口無料化は

古川 仁 議員(日本共産党)

Q 受給者負担金500円を廃止し、完全無料化する考えは。

A 福祉医療制度持続の観点から、受給者負担金については引き続きご理解をいただきたい。完全無料化については、様々な影響を見極めながら、就学児以降の国保減額調整措置や無料化に対する県の財政的支援など、国や県、他市町村の動向を注視していきたい。また、医療機関窓口で自己負担分を支払うことが困難な住民税非課税世帯の家庭の子どもについては、福祉医療費の貸付制度もあるので、そちらについても周知していく。
■飯田市の教育について

飯田市の目指す教育は

湊 猛 議員(会派のぞみ)

Q 上村小学校、和田小学校、遠山中学校の3校では、ユネスコスクールの加盟申請をし、登録に向けて取り組んでいるが、市はどのような支援をし、成果を望むか。

A ユネスコスクールへの登録は、学校教育にESD(持続可能な開発のための教育)を積極的に取り入れようとするものであり、具体的なカリキュラム作りや、理解を深める学習会等において支援をしていきたい。ESDの取り組みが、地域の持続可能性を高め、魅力ある地域づくりに寄与し、新しい学習指導要領に掲げる「社会に開かれた教育課程」を具現化するものとなることを期待している。

「仮称」保育で応援ブックを作成する考えは

村松 まり子 議員(公明党)

Q 現代の子育てについて、祖父母や地域の人に、親と共通の認識を持ってもらうために役立つ「仮称」保育で応援ブックを作成する考えは。

A 子育てについて、祖父母にも知ってほしいけれども、子の父母からは面と向かって言いにくい思いや、今の子育てが自分の時代と違って躊躇している祖父母もいると思われる。議員提案の「仮称」保育で応援ブックについて「みんな子育て応援サポーター」に提供し、その作成や内容について、検討・研究させていただきます。



リニア中央新幹線関連運事業の取り組みは

湯澤 啓次 議員（会派のぞみ）

Q リニア中央新幹線関連運事業に関わる代替地登録情報の閲覧結果と、その受け止め方は。

A 登録制による代替地の情報閲覧者数は、8月1日からの開始後、1カ月間に57人で、用地提供対象者の1割程度であった。全ての方が代替地を希望しているわけではないと考えるが、想定よりも少ないと感じている。今後、補償額の提示により、移転先の確保が本格化すると予想される。移転者ができるだけ希望する場所に移転できるように、市としても最大限協力していく。

地域経済自立促進に向けて

「36災」を風化させない防災意識の高め方は

山崎 昌伸 議員（会派のぞみ）

Q 「36災」に所縁の日を選び、例えば「36災を忘れない、防災について話し合う日」と決めて、事業所等と連携して取り組んではどうか。

A 災害伝承については、ハザードマップに36災害の災害履歴区域の表示を行っており、地域での説明や避難訓練、防災講演等において活用いただきたい。議員提案の「防災について語り合う日」の思考は、大変重要であると思うことから、今後の事業展開においても、それらを念頭において取り組みとしていきたいと考える。

「小さな世界都市」について



高齢化、人口減少に伴う、これからの集会所施設の在り方は

小林 真一 議員（公明党）

Q 集会所施設整備補助事業について、バリアフリー化などの小規模改修が補助対象となるよう、改修・修繕の最低事業費の下限200万円を引き下げられないか。

A 集会所施設のバリアフリー化を含めた小規模な修繕に対応できる仕組みについて、検討していく必要があると捉えている。新しい補助メニューの設定や、現行の補助対象事業の下限の設定金額の引き下げについて、検討すべき課題と捉えている。

防災と福祉の施策は

塚平 一成 議員（会派のぞみ）

Q 家具転倒防止などの高齢者の安全確保対策において、介護事業者と協体制を構築する考えは。

A ケアマネジャー等の介護事業者は、要介護者等の支援を必要とする高齢者と日常的に接触があり、こうした高齢者が安全を確保できるよう、自宅の生活環境についてアドバイスできる立場にあると考える。これは、事業者の役割として重要なことである。高齢者が安全に暮らせるよう、ケアマネジャー等の介護事業者に、防災についても配慮を行うよう、協力を呼びかけることを考えたい。

飯田市食育推進計画について

中山間地域における産業振興の考え方は

清水 優一郎 議員（会派のぞみ）

Q 地域振興から踏み込み、地域創生の意図込みで新たな地域経営の仕組みをつくる必要がある。地域産業の課題に対し、地元企業と連携した取り組みが必要ではないか。

中山間地域振興計画は地域の創生計画としての性格を持つと認識している。地元企業との連携については、中山間地域産業の中心である一次産業の課題に対し、地元企業の技術を生かすことは、地域と企業双方にとって有意義であると考えます。まずは、現場のニーズを捉えるため、関係者と技術をもつ事業者が意見交換する場を作ることから進めていくことが必要だと考えます。

新井 信一郎 議員（会派のぞみ）

Q 「風越山の日」制定の考えは

A 「風越山の日」の制定については、市が先導して行うのではなく、市民の皆さんからそういった機運が盛り上がりつつある時に、市として支援、協働していくことがふさわしい形と考えている。これからの市民のシンボルである風越山を、地域のみならず、風越山に関わる様々な組織、団体とともに保全し、地域づくりに生かし、後世に引き継いでいきたい。

人口ビジョンの実現の方向性は

木下 徳康 議員（会派のぞみ）

Q 「いいだ未来デザイン2028」に掲げる人口ビジョン9万6千人は、学卒者の帰属率が100%であれば達成できるか。

A 帰属率はこれまでの取り組みにより41%へ増加しているが、仮に100%になったとしてもそれだけでは9万6千人の達成は不可能である。自然増と社会増の両方に取り組み、帰属率を高めることのほか、移住・定住者を積極的に地域に呼び込むことにより、相乗効果が達成しようと考

SDGs、RE100に取り組みむことと飯田の産業、人の流れをつくることへの影響について

木下 容子 議員（市民パワー）

Q 防災直後に誰でも避難所開設が可能となる「ファースト・ミッション・ボックス」とはどのようなものか。また、各区の自主防災会への普及をどう考えるか。

A 災害発生時の初動対応について、参集時の具体的な行動内容を、簡潔に判り易く視覚化した複数枚のミッションカードと、最低限必要となる事務用品等を入れた書類箱を「ファースト・ミッション・ボックス」と名付け、平成27年1月から運用している。川路地区では、自主防災会が地区拠点開設用を作成し、9月の地震防災訓練で実際に活用した。今後、各地区や庁内各所においても活用を図っていきたい。

貧困対策における生活再建支援は

後藤 莊一 議員（日本共産党）

Q 多重債務のほか、家計、税務、法律、暮らし全般の相談など、専門機関等と連携しているか。

A 生活就労支援センター「まいさば飯田」では、生活困窮者の自立を促進するために、関係機関と連携を図りながら自立相談事業を実施している。自立支援相談にあたっては、家計相談支援員と就労相談支援員が連携し、家計の再生と就労意欲の助長に取り組んでいる。また、納税課の職員も、納税の場面で受ける相談について、福祉関係の部門へつなぎ、共有している。

■消費者保護について
■農業振興策について

総務委員会

9月10日に委員会を開催しました。
委員会の主な審査について紹介します。

議案第92号

平成30年度飯田市一般会計補正予算
(第5号)案について

公衆トイレ改修工事費に関して

Q ブロック塀の改修は防災対策も含めた
工事か。

A 大阪北部地震を受けて、飯田市の公衆
トイレも点検を行った。危険な箇所を
改修するための補正である。

議案第99号

平成29年度飯田市一般会計歳入歳出決
算認定について

地域おこし協力隊に関して

Q 上村の地域おこし協力隊員はまだ決
まっていないのか、見直しはどうか。

A 地域おこし協力隊は地域課題解決型で
導入している。現在、上村地区でどのよ
うな事業を展開するか、地域内で協議を
行っている。募集は今後となる。

滞納整理に関して

Q 滞納額の多い、早期解決が困難なケ
ース40件を長野県地方税滞納整理機構へ
移管したが、その後の徴収状況はどうか。

A 移管した金額は6千710万円で、そ
のうちの418万円が納入となった。移
管するには滞納整理機構への負担金が必要
であり、今後も費用対効果も考慮しながら
移管すべきものは移管していく。



公衆便所事業に関して

Q 公衆便所事業の活動指標を、改善要望
等に対し処理した件数(率)としてあり
100%となっている。この改善要望はまちづく
り委員会からの要望か。

A 改善要望はまちづくり委員会からでは
なく、利用した人から「故障」や「つま
り」いたずら描き」等の苦情に対応したも
のである。

省エネルギー推進事業に関して

Q 市内の建物に関するエネルギー実態調
査を行ったということだが、結果は公
表するか。

A 飯田市版の省エネ建物仕様の検討資
料にすることが目的であった。特に
公表は考えていなかった。公表しないとい
うものではないので、一連の調査が完了
したところで、公表できる範囲や方法
等を検討したい。

ごみ袋のサイズに関して

Q 資源ごみ廃プラスチックの袋に対する
市民からの苦情が多いが、サイズを小
さくした理由は何か。

A 昨年、南信州広域連合の稲葉クリーン
センターの稼働に合わせ、市のごみ袋
の形を統一した。環境課にも同様の意見が
届いている。今後、見直しを考えたい。

最終処分場管理事業に関して

Q ごみの分別方法が変更になったこと
で、埋め立てごみは減少したが、焼却

灰の受入量が倍増し、処分場の稼働年数に
影響が少なからずあるというが、稲葉ク
リーンセンター稼働後、市民は、プラス
チックは燃やすごみという意識にシフトし
たのではないか。

A 稲葉クリーンセンターが稼働し、分別方
法の変更から、意識が変わった感じがあ
る。プラ資源の回収率は悪くなった。改め
て、分別方法の啓発を行いたいと考えている。

財政調整基金に関して

Q 平成29年度に財政調整基金を4億取り
崩したが、重大なことだと考える。今
後戻す予定はあるか。財調の取り崩しが増
えることは危険である。歯止めは必要と考
えるがどうか。

A 当初予算編成時に、財政調整基金も財
源として計上している。財政調整基金
の繰り入れは年度末の決算見込みにより繰
入額を決めることとしている。過去には災
害対応のため大きく取り崩したこともあ
り、緊急の財政出動が必要な場合はその都
度検討していく。また、財政調整基金は、
予算執行における財源として見込んでい
るが、2020年度末の主要4基金の残高を
40億円以上確保するという財政運営目標を
達成するように、今後も財政運営を健全に
行っていく。

議案第82号

飯田市中心間地域における地域振興住
宅の運営に関する条例の一部を改正す
る条例の制定について

入居条件緩和に関して

Q 市営住宅から地域振興住宅へ1件追加
するということだが、入居希望者はい
るか。今後、入居希望者の見込みはどうか。

A 現在、入居希望があり、今回は1件を
上村程野第5地域振興住宅として位置

付けたいとするものである。このほかの希
望等は聞いてない。

議案第83号

飯田市下久堅ふれあい交流館条例の制
定について

指定管理に関して

Q この交流館は指定管理をすることに
なっているが、指定管理者は、児童ク
ラブの運営も行うのか。指定管理を行う団
体に有資格者がいると理解してよいか。

A 児童クラブの施設も含めての管理を想
定している。

請願審査の結果

請願第4号

★請願者 飯田市職員労働組合

■慎重な審査の結果「採択」としました。
★請願の要旨 執行委員長 小林 晋 氏

国に対し、地方財政の充実・強化を求め
る意見書を提出願いたい

★委員会での主な意見
地方の自立が求められてから久しい

が、地方は人口減少や少子・高齢化に
直面し、それら課題解決に向け身近な行政
サービスの担い手として、地方自治体の果
たす役割は大きい。自治体の事務事業の多
くは国の法令に従い行われている。国は、
自治体はその事業を行えるように、その財
源を確保すべきである。また地方が真に自
立するためには、地方財政の充実・強化は
不可欠である。主旨は適当であることか
ら、採択。

社会文教委員会

9月12・13日に委員会を開催しました。
委員会の主な審査について紹介します。

議案第99号

平成29年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について

地域リハビリテーション推進事業に関して

Q 対象者へのリハビリ支援にとどまらず、家族や介護スタッフなどへの介助方法等の指導から、市民から評判も良く、要望の高い事業と聞いているが、人材を増やす考えはどうか。

A 市民要望の高い事業であり、人材育成の面も含め、増員について検討を進めている。

乳幼児保健事業に関して

Q 各種健診相談の受診率は95パーセントと高い数字であるが、受診できなかった方への対応は。

A 国からは、虐待予防の視点からも、状況を確認するように求められていることから、保健師が電話や訪問等により、必ず確認するよう対応している。

宇宙教育推進事業に関して

Q 県外からの参加実績もあつたようだが、今後は、観光的な要素も持たせ事業推進を図っていく考えか。

A 教育的見地から、地元の子どもの好奇心、冒険心、想像力を引き出すことを目的として、特色ある教育環境づくりに取り組んでいる。特色ある教育環境が、いずれは教育移住実現へつながるよう検討を進めていく。

議案第100号

平成29年度飯田市民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

特定健診に関して

Q 受診率を上げるための具体的な取り組みの状況は。

A 個別健診の自己負担額を500円引き下げるとともに、健診の日程を平日の午後の時間帯や土曜日に設定したほか、秋にも日程を二日間確保する等、健診を受けやすくするための改善を行っている。

議案第108号

平成29年度飯田市病院事業決算認定について

病院経理に関して

Q 病院事業の損益計算書において、当年度純損失4億円余を会計上の赤字として計上している一方で、貸借対照表においては、流動資産として現金預金を35億円余計上している。ここ数年はリニアアック棟の整備等で、減少傾向にあるようであるが、経営上、この現金預金に関しては、今後どのように考えるか。

A 現状では他の病院と比べても、現金の保有に遜色はないと判断している。ここ数年は、現金が減少する傾向であったが、これ以上減らさないことを目標の一つとして、経営改善を進めていく。今後も必要な施設整備等は行っていくが、減価償却

や償値にも着目し、これまで、ともすると短期間で行ってきた起債の償還を今後は慎重に検討していく。

紹介患者の早期受け入れに関して

Q 他の医療機関から紹介された患者さんは、多くの場合、一刻も早い診察を希望しており、目標の一週間でも長いのではと感じる。経営改善を進める中では、患者ファーストといった考えの徹底も必要で、早期受け入れに向けた、さらなる改善も必要と考えるが、どうか。

A 病院の性質上、外来の患者数が多く、症状が安定している患者さんについても、それまでの経過から、継続的に受診している現状があり、外来患者数が減少しない傾向にある。院内でも、紹介患者の優先の具体化について研究を進めているところであり、患者さんの立場に立った改善を目指している。

市内小中学校及び保育園等にエアコン設置を求める要望書の提出について

委員からの動議があり、委員会において議員間自由討議を実施し、議論し共有されたものを委員会の総意として可決しました。

★要望書の概要

今年の猛暑をとり越した連日の酷暑は、子どもたちの学校生活等への影響も大変大きなものであり、小中学校等へのエアコン設置に関して、大きな方向性は確認できている。一方で、整備を進める上での課題も多く、具体的な方向性は示されるに至っていない。これまでの議会での様々な議論を踏まえ、子どもたちが安全に、安心して学習等に取り組める環境と、そのための環境整備も必要であるとの視点から、この機会に、市に対し必要な要望を行いたいとするもの。

9月21日に市教育次長、健康福祉部長に対して要望書を提出しました。

小中学校のエアコン設置に伴う財源確保を求める意見書の提出について

委員会において動議があり、採決の結果可決され、議会議案第2号として第3回定例会本会議へ提出しました。

★意見書の概要

近年の猛暑から、子どもたちが安全に、安心して学ぶことのできる環境整備のために、国に対し財政支援を求めるといふもの。議会議案第2号の意見書は、本会議において全会一致で可決され、議長名で国会及び関係行政庁に提出しました。

陳情審査の結果

陳情第6号

★陳情者 危険な暑さから子どもと先生の命を守りたい父さん母さんの会
代表 福澤 直美氏

■慎重な審査の結果、趣旨採択としました。

★陳情の趣旨

市に対し、市内の小中学校の全教室、体育館並びに全保育園、放課後児童クラブへのエアコン設置を最優先で取り組むよう要望願いたい

★委員会での主な意見

陳情趣旨に記載のあるように、子どもたちの命を第一に考え、早期にエアコン設置を要望する考えは、当委員会との考え方とも一致する。趣旨が適当であり、採択。

陳情趣旨に関しては、議会でのこれまでの議論を踏まえ、まさに適当と判断する。一方で、陳情事項に関しては、財源的な課題もあり、現実的には難しいと判断するため、趣旨採択。ほかにも同様の発言あり。

産業建設委員会

9月14・18日に委員会を開催しました。
委員会の主な審査について紹介します。

議案第88号

損害賠償の額を定めることについて

議案第89号

損害賠償の額を定めることについて

■議案第88号と議案第89号は、一つの交通事故
故に関わる議題のため、一括審査しました。

頻発する交通事故への対策について

Q 最近、市役所が関係する交通事故が多
いと感じている。このような傾向の中、
大きな事故につながることも考えられる。市
役所全体で対策に取り組む必要はないか。

A これまでは、各部署単位で情報を共有
してきたが、現在は、毎月の部長会で交
通事故等の全ての事案を細かなところまで
共有し、全庁的な対策として取り組んでい
る。大きな事故につながるようには、職員
に対して日常的に注意喚起をしている。

議案第99号

平成29年度飯田市一般会計歳入歳出決
算認定について

交通体系整備事業に関して

Q 市民バスや乗り合いタクシーの改善に
関しては、飯田市地域公共交通改善市
民会議が開催されているが、運転免許証の
返納を考えている方などの高齢者の声は市
民会議へ伝わっているのか。



A 市民会議のメンバーには、まちづくり
委員会や民生児童委員協議会、高齢者
クラブの代表者の方々がいて、市民の声を
伝えてくれている。また直接、公共交通の
担当部署であるリニア推進課へ要望等伝え
ただければ対応する。

合併処理浄化槽普及事業に関して

Q 合併処理浄化槽の普及状況は。

A 個別処理区域の水洗化率は70%台で推
移している。水洗化に向けての個別訪
問を丁寧に行い、普及促進を図っている。

勤労者支援事業に関して

Q 勤労者協調融資の利用が減少傾向であ
るが、その要因と将来を見据えた解決
策は。

A 低金利時代を迎え、市の協調融資の優
位性が薄れてきている。これまで、金融
機関や勤労協と協議を重ね、解決策の一つ
として、手続きの改善を行った。その結果、
今年度は新規利用が14件に増加している。

農業振興推進事業に関して

Q リニア関連事業に伴う開発と農振農用
地の調整に関して、農家の住宅と農地が
移転される場合の農振農用地除外の考えは。

A 農地を守っていくためには、担い手が
必要であり、これまでも農家の住宅建
築については、農地の集団性に考慮するな
かで除外してきた。リニア関連事業に伴
う農地の課題は、農家と一緒に考えて解決
をしていく考えである。

堆肥センター運営事業に関して

Q 農産物と堆肥と地域の関係について、ど
のように捉えているのか。

A 当地域は畜産やキノコ栽培が盛んであ
り、これらの生産過程から出される排
出物を堆肥化して循環することが重要であ
る。また、堆肥を大量に必要とするアスパ
ラガスの生産も盛んであることから、生産
団体の意向を汲みながら、地域内の循環に
ついて協議を進めていく。また、堆肥の品
質にも意識して取り組んでいく。

荒廃農地等活用対策事業に関して

Q 平成29年度まで行われた稲WCS（発
酵粗飼料）の実証研究の結果と今後の
課題は。

A 実証研究としては、県の事業を活用
し、稲を青刈りして、ラップフィルム
で巻きながら発酵させる実証を行った。実
際に農協の飼育施設で飼料として与えた結
果は良好であり、輸入飼料よりも低価格で
あり畜産農家にとってもコスト削減の点で
メリットになる。課題としては、コンバイン
での刈り取りやラップを巻く専用の機械
の購入と維持管理をどうするかがある。

起業家育成支援事業に関して

Q 鳥根県江津市のように、NPOがビジ
ネスプランコンテストを運用する事例
もある。行政の役割をどこまで考えるか。

A 江津市の事例も調べており、今後の広
がり方を考えるとNPO等の市場事業者
が関わる必要があると考える。また、そ
こが市場との結節点になるとも考
える。今後、状況を見極めながら、そ
うした考えを反映していく。

観光まつり振興事業に関して

Q 観光誘客のための「まつり」をどのよ
うに評価しているか。

A 例えば、南信州獅子舞フェスティバル
のような地域の伝統文化を伝承する
「まつり」は、観光客の皆さんが地域の魅
力に触れていただくことに繋がる。「まつ
り」がきっかけとなり、地域の神社で行わ
れる獅子舞を2度3度と訪問してくれるこ
とも期待できる。また、地域住民にとつて
は、外からの視点が入ることで、自らの地
域の再発見ができるという効果も期待して
取り組んでいる。

観光誘客推進事業に関して

Q 来年は、ラグビーワールドカップがあ
り、さらに東京オリンピックも控えて
いるが、海外誘客促進に対する考えは。

A 飯田市への人の流れをつくるというこ
とにおいて、インバウンド事業は重要
な要素であり、今まで以上に力を入れてい
く部分であると考えている。

議案第110号

平成29年度飯田市下水道事業決算認定
について

議案第91号

平成29年度飯田市下水道事業剰余金の
処分について

■議案第110号と議案第91号は相互に関連する
ため、一括議題として審査しました。

繰出し基準について

Q 決算書によると純利益は確保されてい
るが、繰出し基準は、企業償還金の占
める割合が大きくなっており心配である。
一般会計からの繰出しは基準どおり繰出さ
れているか。

A 繰出し基準については、総務省の通知
に沿った対応を行っている。当年度純
利益はあるものの、企業償還金は当分の間
続くこともあり、厳しい経営状況に変わり
はないと認識している。

リニア推進特別委員会

7月2日に講演会、8月6日及び9月19日に委員会を開催しました。委員会の質疑等とリニア講演会の様子について紹介します。



リニア駅周辺整備を含むリニア関連事業の進め方等に対する「要望書」への「回答書」について

当委員会が6月26日に市リニア推進部長へ提出した「要望書」に対する「回答書」を受領しました。

回答書の要旨

1 事業の対象となる住民への丁寧な対応について

移転をお願いする皆様に対して、一人ひとりの要望や悩みにしつかり向き合い、不安や心配の払拭に向け対話を重ねていく。

具体的には、移転をお願いする方それぞれの担当職員を明確にし、関係部署との連絡調整や情報共有を図り、移転先の確保、移転に伴う諸手続などそれぞれの方の課題や悩みの解決に向けて、庁内挙げて取り組んでいく。また、事業に関係する皆様への説明に際しては、誤解のない適切で分かりやすい説明に心掛けるとともに、細心の配慮に努めていく。

2 庁内連携について

これまでも、関係部署と随時及び定期的に、情報交換や課題に対する協議を行ってきたが、今後も関係部署が連携のうえ情報共有を図りながら、住民の皆様への立場に立つて事業を進めていく。

3 地区における説明会の在り方について

住民の皆様が知りたい情報や求める情報を考慮し、説明事項や内容をしっかりと検討していく。また、移転をお願いする皆様、代替地の提供をお願いする皆様との話し合いの機会を十分に確保していく。

4 議会への説明について

今後とも、住民説明会等の状況については、適宜、リニア推進特別委員会へ報告する。

■回答書の説明に対する質疑等

Q 回答書にある移転対象者の担当職員の配置とは。

A 用地及び物件補償関係を担当する職員は用地課を中心に15名ほどとなるが、課題等の解決については、リニア推進部全体で対応していく。

Q 個別対応する体制が整う時期は。

A 移転対象者や地権者の担当者は、事業の進捗状況により明確にしていく。8月1日より代替地登録の閲覧が開始され、個別対応が具体化していくと考えられている。大事な時期であるということ、全職員の共通認識として対応していく。

Q (庁内連携)については、一定の理解を促したうえで、県などとの調整に対する考え方は。

A 事業の推進や方向性、課題解決は、事業主体のJRや長野県によるところ

ろが大きいが、地元地権者の皆様や地域における窓口は、これまでどおり飯田市であり、調整をとりながら、しっかりと対応していく。

Q 地区における説明会の在り方に関して、地元説明会の状況は。

A 地元説明会において要求されている内容としては、地権者の皆様が求めている情報、特に代替地の方針と移転補償についての明確な提示であり、早急に代替地について、意向確認を取りながら対応していく。

Q 市の説明は、リニア工事を推進するために、JRの考えに寄ったものであり、住民側に立っていないと住民の皆様が感じているのではないかと。今後どのような姿勢で進めていくのか。

A 住民に寄り添いながら、地元地権者や住民の皆様との悩みや不安の原因は何か、しっかりと相談していきたいと考えている。個々の相談への対応も重要視している。

用地関係者組合の設立状況について

〈説明の概要〉用地取得の対象となる土地の評価の確認を行っていたため、用地関係者組合を設立していただく。現在、上郷地区で9組合、座光寺地区で7組合を予定している。

■回答書の説明に対する質疑等
Q 用地関係者組合には国道153号線沿線の企業や事業者などは含まれるか。

A 事業者も含まれる。

Q 各組合の土地評価の対応は。

A 複数の組合の設立を予定しているが、組合間に不公平が生じないように、適正に対応していく。

Q 組合設立に向けて協議中という組合があるが、その対応は。

A 事業の進捗により組合の設立時期に差ができてしまうが、早期に補償額を提示できるよう協議を進めていきたい。

Q 用地関係者組合の役員にかかる負担は。

A 組合役員に係る負担を鑑みて、組合の設立方法について、組合役員を選出する方法以外に、組合役員を選出しない説明会方式も考えている。いずれの場合も、役員や関係者に負担が生じないように事務局がしっかりとフォローしていく。

リニアを活かしたまちづくり講演会

7月2日に市役所C棟において、リニア駅周辺整備デザイン会議の会長を務められている公益財団法人都市パブリックデザインセンター顧問の小澤一郎さんを講師に迎えて、「リニアとこれからの地域・まちづくりを考える」と題して講演をいただきました。「国土のグラウンドデザイン2050では、これからの地域をどう考えているか」、「国土のグラウンドデザインを踏まえ、これからの地域・まちづくりを考えてみる」、「飯田では、リニア時代に向けて、これからの地域・まちづくりをどう進めるか」という内容で講演を進めていただきました。また、自動運転モビリティのインパクトを生かす公の役割と地域施策についても言及されました。



約100名が参加したリニア講演会

議会による行政評価・提言

飯田市議会では、飯田市自治基本条例に規定されている市議会の責務を果たし、議会としての監視・評価を行うため、議会による行政評価を行ってきています。本年度の行政評価は、「いいだ未来デザイン2028」の実績評価を行う初年度であり、行政評価の具体的手法については、「基本構想基本計画特別委員会」の調査研究に基づいて行いました。「いいだ未来デザイン2028」では、部局を横断した「戦略バスケット」の考え方が導入されているため、議会の評価では、「大局的な評価・いわゆる森の評価」を意識して、新しい評価手法に取り組みました。今年度は、最初に議場で全体会を実施して全ての基本目標の評価説明を受けるとともに、複数の委員会に関連する基本目標については、合同会議の方式で評価を行いました。

『平成29年度決算認定に係る施策評価等に関する提言』からの抜粋

基本目標 (担当常任委員会)	「いいだ未来デザイン2028」次年度（H31）への提言	総合的な評価
基本目標 1 若者が帰ってこられる 産業をつくる (産業建設委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 従来の「外貨獲得」の考え方だけでなく、田舎へ還ろう戦略と順応する地域内経済循環思考を取り入れ、地域内乗数3(LM3)の指標を調査・研究されたい。 新たな産業振興の拠点として南信州・飯田産業センターの役割は益々重要となる。管理運営力のある専門人材確保のため市は最大限協力するとともに、整備後の施設を活用し産業振興の拠点形成につなげるため、南信州広域連合との連携を図るとともに、マーケティングやマネジメント力向上に努められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「戦略」及び「ねらい」は概ね評価できるが、回帰率が示すように成果が出てきていない。一貫したキャリア教育を含む「大学生」、起業の気運を促したい「都市部の若者世代」とどう具体的に接点をつくっていくかを検討するなど、小戦略をさらに充実していくべきと考える。
基本目標 2 飯田市への 人の流れをつくる (産業建設委員会・ 総務委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 20地区が取り組む「田舎へ還ろう戦略」はいいだ未来デザインの最もコアな戦略の一つであり、チャレンジを成功させるためには市民の深い理解と創造性、各地区の知恵が欠かせない。自治振興センターを中心に今まで以上に戦略を「見える化」するなど、必要な行政支援を行われたい。特に地区指定ふるさと納税制度については、当初の目標を著しく下回る現状にあり、行政も当事者としての自覚を持ち各地区と一緒に真摯に取り組まれたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ライフスタイルの変化を認識した上での取り組みを評価する。 「未来デザイン2028」人口ビジョン達成の人の流れをつくるメインの基本目標だが、そこからバックキャストで戦略が構築できているのか疑問である。
基本目標 5 若い世代の結婚・出産・ 子育ての希望をかなえる (社会文教委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 国の幼児教育無償化の動きや働き方改革の動向により、保育等のニーズがさらに高まることが予想される。これらは、保育士等の獲得競争の過熱化や、結果として待機児童の発生に繋がる恐れもある。今のうちから、実態を正確に把握したうえで、対策を検討しておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組んでいる姿勢は評価するが、さらに、理想実現に向け取り組みを強められたい。
基本目標 6 「市民総健康」と 「生涯現役」をめざす (社会文教委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 男性の介護予防事業等の参加が少ない。軽スポーツを取り入れた介護予防事業の採用や、まずは人とのつながりに着目し、夫婦で参加しやすい事業などを取り入れ、男性の事業参加率の向上を目指されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 単年度の取り組みで数値が改善する戦略ではないため、成果についての評価は難しいが、市の財政に与える影響が大きいテーマでもあり、市民の意識付けに力点を置いた取組に期待したい。
基本目標 8 新時代に向けた これからの地域経営の 仕組みをつくる (総務委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標11(災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高め)と連携し、「きちんと防災に取り組むまちづくり」を推進されたい。当地域は土砂災害及び水害が起こる地域である。近年極端な気象現象が起こりやすい気候の中で、幸せに暮らすための工夫を重ねるまちづくりを「まちづくり委員会等」及び「自主防災組織」が取り組めるよう、市民協働環境部(ムトスまちづくり推進課)と連携して進められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域での地域経営は厳しいことも多いが、各地域も行政も頑張っていることを評価する。 10年が経過した「地域自治組織制度」の検証と、まちづくり委員会が関わる行政関連業務の見直しが必要。
基本目標 12 リニア時代を支える 都市基盤を整備する (産業建設委員会・ 総務委員会)	<ul style="list-style-type: none"> リニア関連事業は飯田市がかつて経験したことのない大規模な複合事業であり、従来の経験に頼った進め方では対応できない。飯田市の総合的マネジメント力が試されているといっても過言ではなく、リニア推進部を中心に庁内の英知を結集し取り組まれたい。 多くの事業が同時進行で推進されるなか、移転を余儀なくされる方や「地権者」への配慮を常に心掛け、影響を受ける住民側に寄り添い住民との信頼関係構築に今まで以上に努められたい。また、移転先での円滑な地域コミュニティ確保へも目を向け、相談体制の強化等を検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺整備、道路の新設改良、公共交通の在り方、関係自治体との連携など、同時進行で取り組まざるを得ない状況のなかで、大変な苦勞をされており概ね評価できるが、事業の進捗は順調とはいいがたく、今後も影響を受ける市民の側に立った事業推進が必須である。またこの先10年、車社会が大きく変わる可能性があり、対応が必要である。

9月21日に市長に対し、『平成29年度決算認定に係る施策評価等に関する提言』を議長から手渡し、各常任委員長らとともに提言を行いました。

また、来年度以降の手法に関しては、さらに検討を進めていきますが、執行機関側にも研究をお願いしました。今後予定される平成30年度戦略計画の見直し、及び新年度の戦略計画の策定並びに新年度予算編成にあたり、本提言を誠実に受け止め、さらなる市民サービスの向上に努めるよう依頼しました。



常任委員会の所管事務調査(視察)報告

総務委員会



於 越前市議会議場

◆総務委員会

■実施期日 平成30年7月3日(火)・4日(水)

■調査事項(視察項目及び視察先)

- (1)自治会の活動及び自治会加入の取り組みへの支援について〔愛知県 尾張旭市〕
- (2)地域担当職員制度～職員行きますプロジェクト～について
自治会の活動及び自治会加入の取り組みについて〔滋賀県 米原市〕
- (3)越前市総合戦略について〔福井県 越前市〕
移住定住や多世帯近居・同居住まい推進について

◆社会文教委員会

■実施期日 平成30年7月5日(木)・6日(金)

■調査事項(視察項目及び視察先)

- (1)健康寿命の延伸事業の取り組みについて〔静岡県 袋井市〕
 - (2)北名古屋市版コミュニティ・スクールの取り組みについて〔愛知県 北名古屋市〕
 - (3)子ども・若者総合支援センター“エールぎふ”の取り組みについて〔岐阜県 岐阜市〕
- ※調査事項(3)、岐阜市の視察は、7月4日からの降雨により災害発生の危険度が高まっていたことから、急遽視察をキャンセルした。

社会文教委員会



於 北名古屋市議会議場

産業建設委員会



於 NPO法人 てかねっと石見

◆産業建設委員会

■実施期日 平成30年7月10日(火)～12日(木)

■調査事項(視察項目及び視察先)

- (1)山陰の「創造力特区」江津市
NPO法人てかねっと石見(いわみ)の取り組みについて〔島根県 江津市〕
 - (2)①益田市真砂地区の食・農・教育の取り組みについて
②地元企業との協働による地域活性化について(地域循環型経済)
③定住促進の取り組みについて〔島根県 益田市〕
 - (3)①集落営農(わくわくつわの協同組合)の取り組みについて
②村人が生き生きと暮らせる集落づくりについて〔島根県 津和野町〕
 - (4)田園回帰1%戦略と循環型経済について
〔持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山浩氏〕〔島根県 益田市〕
- ※調査事項(1)江津市の視察は、豪雨災害のため、行政側の視察が急遽対応不可となった。

政務調査研究報告

市議会の各会派では、今後の政策の立案、提言に活かし、ひいては市民益につなげていくことを目的に政務調査を実施しています。平成30年5月から9月までに実施した各会派の調査研究の概要を掲載します。

また、9月21日には、平成30年度前期の政務調査研究報告会を第2委員会室で行いました。

■詳細は飯田市議会公式ウェブサイトをご覧ください。 <http://www.city.iida.lg.jp/>

[飯田市議会 政務調査研究報告会](#)

[検索](#)

会派のぞみ (13人)

■実施日 7月24日(火)～7月26日(木)

■調査事項等

- 在宅介護総合特区(AAAおかやま)について(岡山県岡山市)
- 岡山市都市交通戦略について(岡山県岡山市)
- 市有財産に関するサウンディング型市場性調査(岡山県玉野市)
- 地域連携DMOについて(兵庫県豊岡市)

公明党 (3人)

■実施日 8月7日(火)～8月8日(水)

■調査事項等

- 富山市まちなか総合ケアセンターについて(富山県富山市)
- 新幹線佐久平駅周辺の土地開発の現状について(長野県佐久市)
- 新幹線駅周辺の土地利用、観光産業について(長野県佐久市)
- 立地適正化計画について(長野県佐久市)

会派みらい (3人)

■実施日 7月23日(月)～7月25日(水)

■調査事項等

- 「～リア時代の交流に向けて～地域資源を生かしたまちづくり」
- 子宝日本一(鹿児島県伊仙町)
- エコツアー集落めぐり(鹿児島県伊仙町)
- あまみ大島観光物産連盟(地域版DMO)(鹿児島県奄美市)

日本共産党 (2人)

■実施日 8月8日(水)～8月9日(木)

■調査事項等

- 地域包括支援センターの機能について(滋賀県大津市)
- 生活再建支援の取り組みについて(滋賀県野洲市)
- ようこそ滞納していただきました条例(野洲市債権管理条例)について(滋賀県野洲市)

議員紹介

議員の人となりなどを議員自らが紹介します。(議席順に掲載)



～ビオトープへの想い～

湯澤 啓次

3年前から遊休農地20アール程をお借りし、園児らにバッタ捕りやサトイモ掘りなど「いいだ型自然保育」に少しばかり協力させて頂いております。

お借りした田圃は湿田が多く、一部をガマやセリなど湿地植物の生育地とし、比較的乾いた田圃へはメヒシバやエノコログサ等で「野っ原」を作り、子どもたちの遊び場にもなれる「ビオトープ」の実験を行ってきました。1年目から絶滅危惧種を含む多くのトンボが飛び交うようになり、トノサマガエルやアマガエルの恰好の棲息地となっています。

私が子どもの頃は近所の田圃、近くの野山や小川は全て遊び場でしたが、時代は変わり子どもが自然に触れる機会はめっきり減ってしまいました。幸い、環境さえ整えれば「自然」を取り戻せることを知りました。

子どもたちにトンボやおたまじゃくし、メダカなど、「自然」に触れる機会を提供できたら…ビオトープへの想いは募ります。



～ハント、やっぱりボンド～

永井 一英

脚本家の橋本忍さんが亡くなられた。中学生の時に飯田の映画館で見た名作、ひょっとして人生を決めてしまうのではないかと直感した。後に、シナリオも購入して読み、橋本さんが手がけられたことを知った。

東京で暮らした学生時代、今は少なくなった名画座で、色々な映画を見た。「羅生門」「大脱走」「ウエストサイド物語」「戦争と平和」等々。特に「ローマの休日」はお気に入り、7回も通って見た。映画鑑賞は多分に母の影響がある。「ベン・ハー」「クレオパトラ」「風と共に去りぬ」は、まだ小学生くらいの時に母が観に連れて行ってくれた。

今は「ミッション:インポッシブル」が人気のような。私は007が大好きで、作品はほとんど観た。ボンドには人懐っこさ、人間的な危うさがあり、アクションシーンもさることながら、テーマ曲が流れ秘密兵器が登場するとワクワクする。2人の主人公はともに、最後まで諦めないのがいい。

昔は「ハリー・ポッター」、今は、娘と大スクリーンで観た「グレイテスト・ショーマン」に感動した。



特色ある教育活動として合唱に取り組む小規模特認校の上村小学校

上村小学校が「小さな音楽会全国コンクール」に初出場

本会議、委員会とも自由に傍聴いただけます。ぜひお越しください。

◆災害列島日本の様相を呈していると感じているなかで、猛暑や防災対策に関連する一般質問は大いに関心があり傍聴した。一般質問の内容も充実してよかった。

◆平成30年第3回定例会を傍聴された方のご意見を紹介します。



が、平成30年8月5日に東京・大手町の日経ホールで開催された「小さな音楽会全国コンクール」に初出場しました。出場の前には、議場の傍聴席スペースをステージにし、合唱披露があり、市長や教育長、議長をはじめ多くの議員らで壮行しました。

議会中継をしています

本会議の様子は飯田ケーブルテレビデジタル714chで中継しているほか、一般質問・委員会の様子をインターネットによるオンライン動画配信サービスで中継しています。ぜひご覧ください。 <http://www.city.iida.lg.jp/>

飯田市議会

検索

編集後記

今年の夏は暑かった。とにかく暑かった。連日の様に猛暑警報が出、熱中症予防が毎日の挨拶言葉だった。

夏も終わる頃、幾分過ごし易くなったと感じたら、今度は台風が次々にやって来た。

秋に差し掛かって今度は秋雨前線、稲刈りが出来ない。それでも、晴れ間をみて黄金の穂が刈り取られていく。

議会では行政評価がクールに？行われ、9月定例会後に、施策評価提言書が市長に渡された。

合わせて、幼保・小・中学校にクーラー設置要望も全会一致で提出された。夏は議会にとっても熱い。

議会の動き(予定)

- 議会への請願・陳情の締め切りは11月20日(火)午後5時です。議会事務局へご提出ください。
- 第4回(12月)定例会は11月26日(月)開会です。
- 代表・一般質問は、12月5日～7日の予定です。

広報広聴委員会

委員長 新井信一郎	副委員長 古川 仁
委員 岡田 倫英	塚平 一成 小林 真一
熊谷 泰人	木下 容子 原 和世